

！ 地震・津波から
身を守るポイント

震度と揺れ等の状況



津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発せられます。

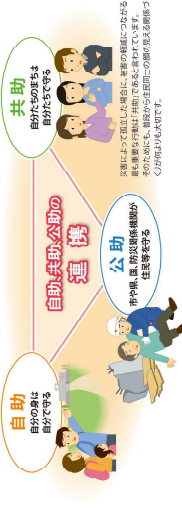
1. 研究の目的と意義 2. 研究の背景と動機 3. 研究の範囲と対象 4. 研究の方法と手順 5. 研究の結果と考察 6. 研究の結論と今後の展望	1. 研究の目的と意義 2. 研究の背景と動機 3. 研究の範囲と対象 4. 研究の方法と手順 5. 研究の結果と考察 6. 研究の結論と今後の展望	1. 研究の目的と意義 2. 研究の背景と動機 3. 研究の範囲と対象 4. 研究の方法と手順 5. 研究の結果と考察 6. 研究の結論と今後の展望	1. 研究の目的と意義 2. 研究の背景と動機 3. 研究の範囲と対象 4. 研究の方法と手順 5. 研究の結果と考察 6. 研究の結論と今後の展望
--	--	--	--

● 10m(10×5m)手書き紙 10m(10×5m)手書き紙(50cm)	巨大	● 3m(3×5m)手書き紙(50cm)	高い	● 1m(1×5m)手書き紙(50cm)	低い
● 7cm(7×5cm)手書き紙 7cm(7×5cm)手書き紙(50cm)	中	● 3cm(3×5cm)手書き紙(50cm)	低い	● 1cm(1×5cm)手書き紙(50cm)	低い

● 7cm(7×5cm)手書き紙(50cm)は、7cm(7×5cm)手書き紙(50cm)と7cm(7×5cm)手書き紙(50cm)の2枚を1枚として使用する。● 10m(10×5m)手書き紙(50cm)は、10m(10×5m)手書き紙(50cm)と10m(10×5m)手書き紙(50cm)の2枚を1枚として使用する。● 3m(3×5m)手書き紙(50cm)は、3m(3×5m)手書き紙(50cm)と3m(3×5m)手書き紙(50cm)の2枚を1枚として使用する。● 1m(1×5m)手書き紙(50cm)は、1m(1×5m)手書き紙(50cm)と1m(1×5m)手書き紙(50cm)の2枚を1枚として使用する。

みんなであげ合う
地域の防災活動

防災・減災のキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉がよく使われます。自助とは「自分の身は自分で守る」こと、共助とは「家族・近所でお互いに助け合い地域を守る」ことを指します。また、公助とは「公的機関からの援助や支援」を指しています。災害の発生発生完全になす見し防ぐことはできませんが、自助、共助、公助が連携し、効果的に機能することで、被害を減らすことが可能となります。

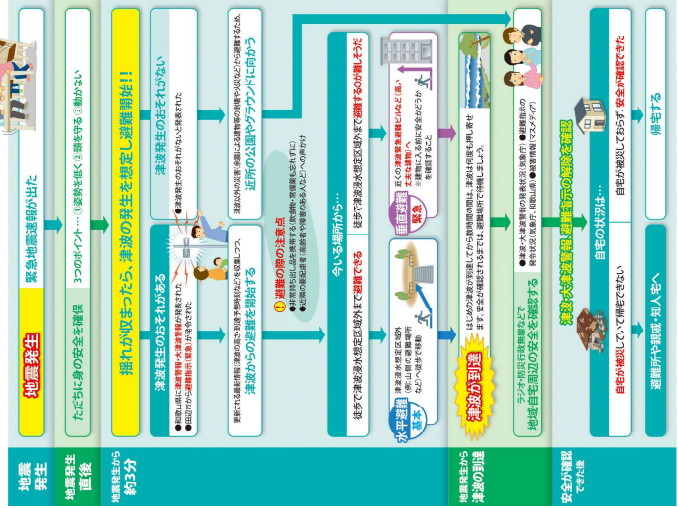


地震によって建物が倒壊しない場合でも、大きな家具の転倒やガラスの飛散などにより、ケガをしたり、閉じ込められたりするおそれがあるので、今すぐ地震対策をしましょう。

 船は「丁」を 対面今日の利率



！ 地震・津波から
身を守るポイント



日頃からの備えが大切
非常持ち出し品

災害が発生したときは、すぐに避難しなければいけません。とめ、持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。



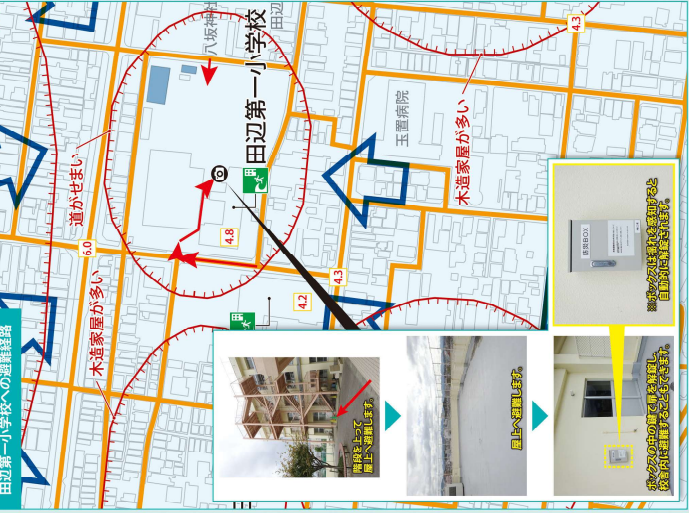
循環備蓄とは、備蓄食料・燃料などの保存期間が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことをいいます。

定期内に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに、定期的に買い足すことを可能にします。

災害時の連絡方法を家族で確認しておきまよう、また、田辺市の『防災・行政メール』を登録しておきまよう。

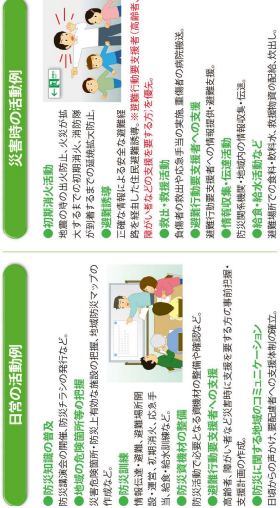
災害伝言ダイヤル 171 田辺市防災行政情報システム『防災・行政メール』

- [illegible]

[illegible]

 みんなで助け合う

自主防災組織とは、「自分たちのまちを自分たちで守る」という、地域住民の意識に基づき、結成される防災組織のことです。自主防災組織は、災害発生時にお互いの身を守るため、平時からの防災訓練を含めた防災活動を行います。災害時効果的な活動ができるよう、住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を共有し、各家庭で災害に備えるとともに、地域住民が一本となり防災活動へ取り組むことが重要です。



遊歴行動を要するとは、一般に高齢者や障がい者、乳幼児や障がい者、外国人など、言葉生時の遊歴に時間のかかる方々を指す。地域で協力し合いながら、近所の要支援者の方の安否確認や遊歴場所への遊歴を支援しよう。

